



自治協議会が 元気な地域づくりの
今、を発信

大石地区

(No.6)

笑顔あふれるまち

「暑い中、草取りありがとうございます。さうございしました。」「いえいえ、また、遠慮なく頼んでください。」と笑顔でお礼を言われ、笑顔で答える。大石地区の目標は、「人と人とのつながりを大切にし、世代を超えた笑顔あふれるまち大石」です。世帯数は999戸、人口は2673人です。大石小学校の児童数もだんだんと減少していますが、いつも笑顔で元氣よく私たちにあいさつをしてくれます。

大石地区は平凡な田園地帯ですが、JR大石駅や筑後川温泉、Aコープ大石店やコンビニエンスストア、医療・老人福祉施設もあり、また、近くには高速バスの杷木停留所や杷木の商店街があるなど、どちらかと言えば、便利で安心して暮らせる地区ではないかと思えます。

しかし、大石地区は昭和28年の大水害で甚大な被害を受けた地域であり、地区としての防災体制の取組が急がれます。今後、地区防



▲国体記念大石堰駅伝競走大会
に31チームが参加(1月15日、
大石放水路にて)

災計画の策定や防災訓練等を行い、さらに安心して暮らせる地域づくりを目指していきます。
さて、大石地区自治協議会も発足して4年目を迎え、旧大石公民館からの貴重な財産(鳳上げ大会や国体記念駅伝大会等)を引き継ぎながらも、地区住民の意見を取り入れた新たな取組にも挑戦しています。みんなが住んでよかったと思える地域づくりへ、今後も住民と自治協議会、そして市や社会福祉協議会等と協働していきたいと思っています。

支え合う

地域づくりへ



▲お手伝いを「頼みたい」「したい」
どちらの会員も募集中です

西日本新聞や社協だより「ふくしのかわら版」にも掲載され、ご存じの方もおられるかと思いますが、7月27日に住民型有償サービス「おおいし絆(きずな)クラブ」を立ち上げ、高齢者や障がい者等の生活支援サービスを始めました。発足のきっかけは、地域計画の策定や自治協議会独自の地域福祉講座で、「定期的な見守り・声かけや集まる場所はあるが、日常生活上のさまざまなお手伝いをしてくれる人がいない現状がある。それなら何かお手伝いを行う活動のシステムを検討していこう。」という

ことになり、先進地視察や検討委員会を発足させ、半年以上議論を重ね、ようやく設立に至った次第です。

8月末現在で、お手伝いをする協力登録会員37名、利用登録会員7名とまだ少ないですが、発足したばかりであり、今後の高齢化社会を考えると、そして安心して暮らせる地域福祉社会づくりのために、なくてはならない制度だと思っています。

遠慮なく助け、助けられる関係で大きな住民同士の絆と信頼が生まれ、世代を超えた笑顔あふれるまち大石づくりに、汗をかいていきたいと思っています。



▲困った時はお互い様(8月4日、10日の豪雨災害料理ボランティアにのべ39名が参加。杷木らくゆう館にて)

●問合せ 市民協働推進課 コミ
ユニティ支援係 TEL 755-4982